

私たちは、PC遠隔操作事件の関連報道を 特別チームで調査、検証しています



▲逮捕翌日の11日付各紙(左上から時計回りに、読売、朝日、産経、毎日)

昨年、各地で4人が誤認逮捕された、いわゆるパソコン(PC)遠隔操作事件。今年2月10日、捜査当局は片山祐輔氏を事件の真犯人とみて逮捕。各メディアは、逮捕前の盗撮映像などを交えつつ、真犯人逮捕の決定的な証拠があったかのように、大々的に報道しました。

当機構は、まず逮捕当日、容疑を認めているかどうかも定かでない段階で、片山氏の同種前科をはじめ大量の情報が流された異常性に警鐘を鳴らすべく、最初の〈注意報〉を発信。その後、当初、逮捕の決め手と報じられた防犯カメラ映像について、弁護人が疑義を唱えたことをスポーツ紙だけが報じ、他の主要紙が全く報じていないことが判明。このままでは捜査側に偏重した報道が続く可能性が高いとみて、2月19日から弁護人の会見取材を開始しました。

以来、今日にいたるまで特別チームを組んで、弁護人の反論や事実誤認の指摘をきちんと伝えているか、根拠もなく犯人と決め付けていないか、継続的にチェック。これまでに7本の〈注意報〉を発信したほか、Yahoo!ニュースにも5本の検証記事を配信し、大きな反響を呼んでいます。事件は長期化が予想されますが、捜査側に偏向した報道をしていないか、今後も特別態勢で調査を継続していきます。

また、犯罪報道のあり方について見直し機運を高めるため、過去のえん罪加担報道を実証的に可視化するプロジェクトも始めています。皆様の積極的なご参画・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

遠隔操作逮捕「全面否認」は後出し

2013年2月10日 注意報一覧 メディア：NHK ジャナル、事件、社会 テーマ：PC遠隔操作

【NHK】 2013/2/10 「遠隔操作事件 都内の30歳男を逮捕」

【注意報1】 2013/2/10 12:30

主要メディア各社は、2月10日朝、いわゆるP.C遠隔操作事件で、警視庁など合同捜査本部が東京都江東区に住む30歳の男性を、実名で、殺人予告の脅迫をしたとして威力業務妨害の疑いで逮捕したと一斉に報じた。第一報は当然、逮捕された男性が容疑を認めているかどうかについて報じては来ていたが、その後の各社の情報によると、男性は「全く事実ではありません」と容疑を全面的に否認しているとのことだ。

NHKは、ニュースサイトの記事で、男性が容疑を認めているのかには一切触れず、「留置手などは4人の男性が誘導された一連の事件に関わったとみられ、詳しい経緯や動機などの経緯を進めることとしています。」と報じていた。逮捕された男性を名乗って出た上で、「以前、インターネットを使った脅迫事件などで逮捕され、実刑判決を受けています。」と男性の刑科にかかわる経緯を報じていた。

その後、NHKの記事は上書き訂正され、男性が「まったく事実ではありません」と容疑を否認しているとの情報が追加されている。

■遠隔操作事件 都内の30歳男を逮捕 (NHK WEB NEWS 2013/2/10 10:03)



遠隔操作 首輪つけた瞬間画像「存在疑わしい」

2013年2月20日 注意報一覧 メディア：朝日、産経、読売、ジャナル、事件、社会 テーマ：PC遠隔操作

【読売】 2013/2/11朝刊1面「PC遠隔操作、30歳逮捕 盗撮イベント殺人予告容疑」、同39面「読売「ゲームです」」、2013/2/12夕刊15面「PC遠隔操作『盗撮に首輪』日付偽装か 別の日の写真添付」

【産経】 2013/2/11朝刊3面「遠隔操作 江の島の映像」徹底解析」、2013/2/13朝刊27面「盗撮先PCから捜査官の記録」、2013/2/15朝刊26面「遠隔操作江の島行き認め 片山容疑者 事件発生は高望」

【朝日】 2013/2/11朝刊39面「盗とカメラ 特定の疑」、2013/2/15朝刊38面「片山容疑者『犯人は別』 弁護人に訴す」

【注意報1】 2013/2/20 08:00

いわゆるPC遠隔操作で威力業務妨害の疑いで会社員の片山容疑者が逮捕された事件で、読売新聞などは、逮捕第一報の2月11日付朝刊などで、江の島の盗撮カメラに接していた1月3日の映像に、片山さん似た男性に首輪をかけたという事実が映っていたとし、この映像が犯人の特定につながったと報じた。しかし、片山さんは、逮捕以来一貫して事件への怒りを否認し、江の島に行った事実は認めるものの、首輪を付けたこと自体は否定しているとのことだ。片山さんの弁護士は容疑者の佐藤浩平弁護士は、報道されたような「男が首輪をつけた瞬間が映っている映像の存在は疑わしい」と反論している。

佐藤弁護士は、2月19日午後の捜査委員で、以前に捜査官に「もし決定的証拠があるなら、早く出してほしい」と言っても、沈黙が続いてこなかったことを指摘。その後の当該映像の単独取材でも「首輪をつけた瞬間の映像があるなら、すぐ突きつけるのが自然なので、答覆は出来なくはない」と捜査官の不自然さを指摘し、男が首輪をつけた瞬間が映っている映像の存在自体に強い疑問を示した。(*)



遠隔操作「可視化拒否され黙秘」実際は「雑談」も

2013年2月21日 注意報一覧 メディア：朝日、産経、読売、ジャナル、事件、社会 テーマ：PC遠隔操作

【東京】 2013/2/19朝刊29面「遠隔操作事件 片山容疑者 可視化拒否され黙秘 警察『対象でない』」

【注意報1】 2013/2/21 07:00

いわゆるP.C遠隔操作事件で、東京新聞は、2月19日付朝刊で、「可視化拒否され黙秘」の身出しをつけ、威力業務妨害の疑いで逮捕された片山さんが、捜査当局が盗撮への録音・録音の承諾を拒否したことから、黙秘に陥ると報じた。しかし、弁護士の佐藤浩平弁護士によると、片山さんは18日、取調べへの同意書と「雑談」と称する会話に応じ、その中には片山さんのプログラム言語に関する知識・経験に触れるものなど事件に関するものもあったとのことだ。また、片山さん側は、取り調べ全過程の録音・録画、いわゆる「可視化」を徹底するまで取調べに応じないが、可視化されればすぐに取調べに応じるとしており、供述は一切拒否する「黙秘」ではないとしている。



▲逮捕直後に GoHoo が発信し大きな反響を呼んだ注意報(左から2月10日付、20日付、21日付)

弁護人が冤罪を主張するこれだけの理由 —PC遠隔操作事件

徳井 人文 | 日本報道検証機構代表・弁護士
2013年3月24日 16時51分



両岸警察署前で記者会見を行う佐藤浩平弁護士

ツイート (1,741) | 981 | コメントを見る (5件)

弁護側主張を正確に伝えられないメディア

いわゆるP.C遠隔操作事件で、片山祐輔氏が3つの事件に関わったとしてハイジャック防止法違反、威力業務妨害、偽計業務妨害の罪で東京地検に起訴された。片山氏は逮捕直後から一貫して否認、録音・録音を条件に取調べを拒否している中、勾留理由開示手続きの公判が2度開かれ、事実上の「被疑者質問」により冤罪を主張する展開となった。

起訴を受け、主要各紙は、捜査当局が客観的な証拠を積み上げて有罪の確証を得るに至ったなどと報道。中でも、産経新聞は3月23日付朝刊で、「弁護側主張 不自然さも」という記事を掲載し、弁護人の主張に「多くの不自然さが残る」と指摘している。しかし、弁護人の主張を正確に理解し、検討したうえで指摘とは到底いえない。

産経の記事は、「不自然」な弁護人の主張を2つ挙げている。1つは、片山氏が遠隔操作ウィルスの作成に使われたプログラム言語「C#(シー・シャープ)」を使う能力がないという主張。もう1つは、大阪府の男性のP.Cが遠隔操作され、大阪市のホームページに無差別殺人予告が送られた当日は日曜日で、片山氏が派遣先に出勤していなかったという点だ。

□東京地検「有罪の確証得た」 弁護側主張に不自然さも 片山容疑者起訴 (1) (2) (MSN産経ニュース2013/3/22 20:46)

▲弁護側主張がメディアで正確に伝えられていない 実態をレポートした Yahoo!配信記事(3月24日付)

■2013年2月26日(1回目の勾留理由開示公判)

【メモ】初めての勾留理由開示公判は各紙・各局が目目し、片山氏の無実の訴えを大きく報じた。だが、この頃から事件の続報は大幅に減少していった。

「一切関係ない」

2月26日 17時39分



NHK NEWS WEB 2013年2月26日

■2013年2月24日

【メモ】産経新聞が逮捕後2週間の記事で、捜査関係者が「片山容疑者=真犯人」と描く構図を詳報。



▲GoHooの特集ページでは、事件経過とともに、報道の経過を時系列で一覧化している